



©Holger Hage

チョ・ソンジン(ピアノ) Seong-Jin Cho, Piano

圧倒的な才能と生来の音楽性を持つチョ・ソンジンは、同世代の最も優れた才能を持つひとりとして、また現在の音楽界における最も異彩を放つアーティストとして名を成している。思慮深く詩的で、堂々としながらもやさしく、また極めてヴィルトゥオーソ的で色彩豊かなチョ・ソンジンの演奏は、貴族と純粋さを兼ね備え、見事なバランス感覚によって生み出されている。

1994年ソウル生まれ。6歳でピアノを習い始め、11歳で初めて観客の前でリサイタルを行う。2009年浜松国際ピアノコンクールで最年少優勝。2011年には17歳でチャイコフスキー国際コンクール第3位入賞。2012-2015年にパリ音楽院でミシェル・ペロフに学ぶ。

2015年にショパン国際ピアノコンクールで優勝。国際的な脚光を浴び、瞬間にキャリアを高める。2016年初めてドイツ・グラモフォンと専属契約を締結。2023年にはクラシック音楽界への格別の貢献を認められ、サムスン湖蔵(ホムア)賞(芸術部門)を授与された。現在ベルリンを拠点とする。

これまでベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ロンドン響、パリ管、ニューヨーク・フィル、フィラデルフィア管等、世界有数の一流オーケストラと共演しており、指揮者ではジョン・ミンヨンファン、グスターボ・ドゥダメル、アンドリス・ネルソンス、ヤニック・ネゼ＝セガン、ジャンドレリア・ノセダ、サイモン・ラトル、サントゥ＝マティアス・ロウヴァリ、エサ＝ベッカ・サロネン、ラハフ・シャニ等と定期的に共演している。

2023/24シーズンは、アイヴァー・ボルトン指揮モーツァルト管との共演でザルツブルク音楽祭へデビューするほか、サントゥ＝マティアス・ロウヴァリ指揮フィルハーモニア管とはロンドンのBBCプロムスに再出演する。

また、コンセルトヘボウ管、ロサンゼルス・フィル、ボストン響(ボストンとカーネギー・ホール)

チョ・ソンジンの演奏を初めて聴いたのは2011年、率直な瑞々しい演奏に好感を持ったことを覚えている。それ以来、来日のたびに表現に広がりが増えていることを実感してきた。

特にコロナ禍ゆえにしばらくぶりの来日となった2022年8月の東京オペラシティでのリサイタルでの演奏は、確実な進化どころか、驚くべき飛躍を感じさせた。芯のあるタッチを土台とする重厚な響きのうちに変奏ごとの性格を描き分けて壮大に曲を構築したブラームスの「ヘンデルの主題による変奏曲」、多様な響きの色合いの変化を生かしつつ深淵を覗き見るような暗い幻想美を現出したシューマンの「交響的練習曲」など、ドイツのロマンティシズムの真髄に迫るその演奏は深い思索性を感じさせるもので、とても28歳の青年とは思えない大成した芸術家の演奏だったのだ。

さらに驚いたのはこの日のアンコールである。ショパンのスケルツォの第2番を弾き始めた時、アンコールにしてはずいぶん長い曲をやるなどと思いつつ、かつての彼のショパンと比べて一段と彫りの深い演奏に引き込まれてしまった。そして拍手が続く中、彼は次にスケルツォ第1番を弾き出し、なんとその後も第3番、第4番とショパンのスケルツォ全曲を弾いてしまったのだ。日頃アンコールは気の利いた短い曲を1、2曲弾くにとどめるべきと考えている筆者だが、この時は演奏のあまりのすばらしさにただもう聴き惚れるばかり。チョ・ソンジンの大化けぶりを印象付けた演奏会だった。

今回の来日でのプログラムはまたがらりと傾向が変わり、ラヴェルの主要作品を網羅するとともに、リストの『巡礼の年第2年「イタリア」』が取り上げられる。パリで勉強したチョ・ソンジンのこと、独自の感性でラヴェルの美質に肉迫してくれるに違いない。リストも詩的・文学的な作品だけに、どのようにアプローチするのが楽しみだ。前回とは違った角度から彼の大成ぶりが示される公演となることを期待したい。

音楽評論家 寺西基之

との再共演や、クリーヴランド管、サンフランシスコ響、シカゴ響のデビューが予定されている。ツアーのソリストとしても人気があり、キリル・ペトレンコ指揮ベルリン・フィルの韓国ツアー、アンドリス・ネルソンス指揮ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管の韓国・日本ツアー等を含む国際ツアーに参加。2024年の春にはジャンドレリア・ノセダ指揮ワシントン・ナショナル響とヨーロッパ各地で演奏を予定している。

また、引く手あまたのリサイタル・ピアニストとして、カーネギー・ホール、アムステルダムのコンセルトヘボウ、ベルリン・フィルハーモニー、ウィーンの楽友協会とコンツェルトハウス、ミュンヘンのプリントレーゲンテン劇場、ロンドンのバービカン、ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノ・フェスティバル、ヴェルビエ音楽祭等、世界の権威あるホールや音楽祭で多くのリサイタルを行っている。今シーズンはフランクフルトのアルテ・オーパー、シャンゼリゼ劇場、KKLルツェルン、サラ・サンタ・チェチーリア、アテネのメガロン、カーネギー・ホール等のホールでソロ・リサイタルを予定している。

最新の録音は2023年2月にリリースされたソロ・アルバム「ヘンデル・プロジェクト」。2021年8月にはノセダ指揮ロンドン響とのショパン：ピアノ協奏曲第2番とスケルツォ集をドイツ・グラモフォンでリリース。「さすらい人」と題されたソロ・アルバムは2020年5月にリリースされ、シューベルトの幻想曲「さすらい人」、ベルクのピアノ・ソナタOp.1、リストのピアノ・ソナタ 10短調を収録。2017年11月にはドビュッシーのソロ・アルバム、2018年にネゼ＝セガン指揮ヨーロッパ室内管とのモーツァルト・アルバムをリリース。すべてのアルバムがイェロー・レーベルでリリースされており、世界中で批評家から絶賛されている。

チョ・ソンジン 2024来日公演その他の日程

- 6月5日(水) 福岡 福岡シンフォニーホール(アクロス福岡)
アクロス福岡チケットセンター TEL: 092-725-9112
- 6月6日(木) 鳥取 鳥取県立倉吉未来中心
鳥取県立倉吉未来中心 TEL: 0858-23-5391
- 6月8日(土) 名古屋 愛知県芸術劇場コンサートホール
CBCテレビ事業部 TEL: 052-241-8118
- 6月9日(日) 大阪 ザ・シンフォニーホール
ABCチケットインフォメーション TEL: 06-6453-6000

X(旧Twitter)でフォローする
X@japan_arts

【特別割引チケットのお知らせ】

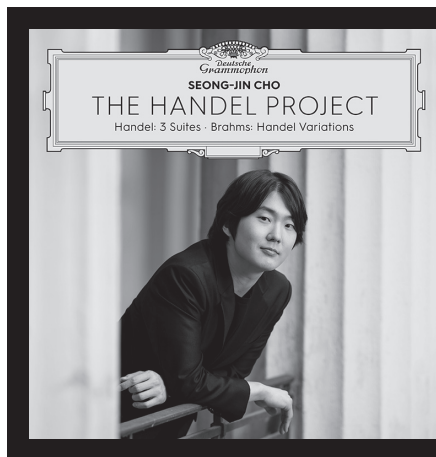
ジャパン・アーツびあで受付、川崎公演は神奈川芸術協会でも受付
◎シニア割引 公演当日65歳以上の方は5席 ¥8,100・A席 ¥6,800(税込)にてお求めいただけます。

◎学生券(各ランクの半額) 残席がある場合に限り、4月13日(土)10:00より受付を開始します。*社会人を除く公演当日25歳までの学生が対象です。当日は学生証をご提示の上、ご入場ください。(学生証がない場合、一般価格との差額を頂戴します。)

◎車椅子の方は、本人と付き添いの方1名までが割引になります。必ず事前にご予約ください。(東京公演はジャパン・アーツびあコールセンターのみで、川崎公演は神奈川芸術協会のみで受付)

次のことをあらかじめご承知の上、チケットをお求め下さい。

- ①やむを得ない事情により、曲目等が変更になる場合がございます。
- ②公演中止を除き、お買い求めいただきましたチケットのキャンセル・変更等はできません。
- ③いかなる場合も再発行はいたしません。紛失等には十分ご注意ください。
- ④演奏中は入場できません。
- ⑤未就学児の同伴はご遠慮下さい。なお、なお就学児以上の方もご入場には1人1枚チケットが必要です。
- ⑥全席指定席です。券面に記載された指定のお座席にてご鑑賞ください。
- ⑦場内での写真撮影・録音・録画 携帯電話等の使用は、固くお断りいたします。
- ⑧ネットオークションなどによるチケットの転売は、トラブルの原因になりますので、お断りいたします。
- ⑨他のお客様の迷惑となる場合、主催者の判断でご退場いただく場合がございます。



世界へと羽ばたいたセンセーショナルなピアニスト、 チョ・ソンジンの最新作!

ヘンデル・プロジェクト チョ・ソンジン

【収録曲】

ジョージ・フレデリック・ヘンデル (1685-1759)

- ①組曲 第2番 ヘ長調 HWV427
- ②組曲 第8番 ヘ短調 HWV433
- ③組曲 第5番 ホ長調 HWV430 《調子のよい鍛冶屋》

ヨハネス・ブラームス (1833-1897)

- ④ヘンデルの主題による25の変奏曲とフーガ 変ロ長調 作品24

ジョージ・フレデリック・ヘンデル

- ⑤サラバンド 変ロ長調(組曲 第7番 HWV440 から第3曲)
- ⑥メヌエット 短調(組曲 第1番 HWV434から第4曲)(W.ケンプ編)

チョ・ソンジン (ピアノ)

録音: 2022年9月 ベルリン、ジームスヴィア